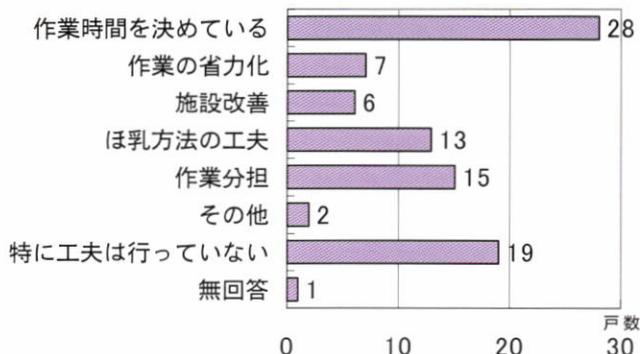


ほ育作業を効率良く行うためにやっている工夫（複数回答）



「作業時間を決めている」に次いで「特に工夫は行っていない」との回答が多くありました。何かと不都合を感じる点はあるけれど、改善までは至らない現状があるようです。

具体的な工夫例について、代表的なものを下にまとめてみました。

効率良く働いたための工夫例	作業時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日のスケジュールを決めて作業している。 ※スケジュールを決めると1日の流れがみえるようになり、無駄が減って効率的な仕事が期待できます。
	作業の省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子牛を処理室の近くにおいている ・ 常時行動する範囲に子牛をおいている ※子牛の場所をちょっと変えるだけで、重量物運搬の軽減やこまめな観察が無理なく行える等、様々な省力化につながります。
	施設改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動ほ乳装置 ※自動ほ乳装置を導入してから成育が早いとのことでした。
	ほ乳方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ お手製ほ乳ビンホルダーの利用 ※時間がかかるので大変と感じているほ乳ですが、ちょっとした工夫で時間短縮につながります。
	作業分担	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発育ステージに合わせて分担（初め一週間は経営主がその後は妻が担当） ・ 専属 ※役割分担派と専属派がありました。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ カーフハッチの並べ方 ・ 基本を守る ・ 月齢別に管理 ・ 早期離乳で楽しています。 ・ 発酵乳の利用(2戸)

まとめ

「子牛の調子が悪いと自分も調子が悪くなる」「薬等で予防しているのに良くならない」等、「子牛の健康管理」に苦勞している声が多く寄せられました。

また、今回の調査結果より、こまめな観察が必要と感じながら、観察の時間をあえてとっていないという実態が明らかになりました。ほ育期の観察は、スムーズな発育に欠かせない重要な仕事の一つです。まず①無駄を省いて効率的には育作業を行う。（作業動線の見直し）②それに伴ってできたゆとりの時間を観察にあてる。そうすることで、良い後継牛を育てることができ、身体的・精神的・経済的負担が軽減されるのではないのでしょうか。

